

行仙宿の水場径・補給路道普請及び

間伐材調達と懇親会

◇実施日：平成26年5月24日(土)；快晴・朝気温11℃

（25日(日)；晴・朝気温13℃

◇参加者：山上皓一郎、川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、

生熊敏男・千智満子、青木宏充の7名。

茂原クリニックG；茂原 治、茂原 仁、平澤 研

平野絵里奈、田原卓也、皆川 光、蛭田直樹、

徳舛弘巳(25日・日帰り)の8名

NHK和歌山放送局；近藤慶一DL。 計16名

5時過ぎに起床。朝食はサトウのご飯、おでん残りといんスタント味噌汁で済ますつもりだったが、青木さんが豆腐と生ハムの目玉焼きを調理して下さり、昨夜に続き豪華な朝食になる。昨夜沖崎さんに荷上げに登山口に下りるか確認すると、下りて来なくとも良いとの事であった。

7時過ぎ川島は水汲みへ、青木さんは旧通信道の再点検へ、生熊さんは、道普請の道具準備と水場径の普請担当をお願いし、段差用栈木を選抜して頂く。茂原クリニック一行が行仙宿に着くまで時間もあり、生熊さんは一人で段差改修をされる。川島は、水汲み後補給路普請箇所現地状況を把握して、改修要領を決め部材・鉄筋の一部を運搬する。

9時半過ぎになり、作業を止め紅茶の準備をする。程なく生熊千満子さんと児嶋さんが到着。紅茶・お茶等の賄を千満子さ

んに任せる。

茂原先生到着後、一人二人と大きな荷を背負って登って来られる。紅一点の平野さんも15kg弱を担いでいる。今回は初参加が4人も居られ、蛭田君等はきつかったと座り込んでいる。

茂原クリニックGは、缶ビール4箱+飲料水1箱+野菜ジュース1箱等の寄贈品と登山口の砂4袋を荷上げて下さる。

沖崎、山上さんが到着せず、川島が迎えに鉄塔近くまで下ると、大江さんから衣装ケースの荷上げを頼まれ、その中に食材等を詰め大きな荷姿を背負った沖崎さんが登ってくる。

山上さんの様子を尋ねると、近藤DLと撮影しながら登って来てるから大丈夫と言うので一緒に小屋に戻る。

皆川君が車の鍵が無い・・・、第二ベンチで煙草を吸った時に落とした可能性が高いと第二ベンチに捜しに下る。



全員揃ってから行者堂で勤行するから、水汲みへ行かない様に指示する。しばらくして近藤DLに付き添われて山上さんが登って来られる。奥さん手作りの胡瓜揉み・三杯酢の酢の物及

び鈴焼き等の差し入れ品を持たれて荷が重かった事が後で判る。生熊さん導師に明日迄の作業安全と玉岡さんの早期快癒を祈願して勤行する。

皆川君が無かったと戻って来るが、登山口まで捜しに下る。茂原先生を含め皆川君以外は、水汲みに行かれる。その間、荷上げた食材整理と道普請用の部材を準備をする。

旧通信号から笠捨山を経て戻った青木氏と水汲み組が全員戻った時点で、皆川君が戻ってないが11時半前に昼食とする。

2回程行き来したが鍵が見つけれないと、12時頃に汗びっしょりで戻つ来られ昼食をされるが、しよげ返っている。

12時半過ぎに、平澤、茂原仁、青木さんが鍵を捜しに行かれる。水場径の道普請は、生熊、児嶋、茂原先生、蛭田君が、補給路の道普請は、川島、沖崎、中野、田原・皆川君に分れる。

中の峪ガレ場の小屋寄りを改修する。最上部は木杭が腐食しているので、沖崎、田村さんが木杭を3本打ち、現状の土止めが崩れない様にする。

下方側は、現状栈木の土止め下に鉄筋2本と木杭1本打ち栈木8本で新たに土止めを造る。現状の土止めに鉄筋を5本打ち腐朽した栈木を除き新たに丸太栈木を据える。

そこへ青木さんが鍵を見つけたと戻って来て手伝って下さる。腐朽栈木を除いた際に下に土砂が落下し路面が低くなったので、ガレ場の土石をトンガで掻いて一斗缶と手ミに入れ、4人の手伝いで埋めて行く、平野さんは重さに耐えながら手伝って下さる。予定した作業が14時前に終了し、休憩に小屋に戻る。

青木・平野さんでホットケーキを焼いて下さりおやつだ。

茂原仁、平澤君は、青木さんから鍵を預かった後、登山口に下り各2袋の砂を背負って戻られる。これで計8袋の砂が荷上げされる。

休憩後路面の低い所にガレ場の土石を敷く。茂原仁、平澤君にも加勢して頂き、ガレ場から200m下った地点の、土止め栈木が無く、路面が谷側に抜けた地点を改修する。現状の上部栈木を除け、新たに土留め栈木を積み重ね石を詰め込む。足りない土は山側の土をジョレンで崩して敷く。

此処も16時前に終了し、道具を持って小屋に戻る。



補給路道普請を取材撮影

略完成、1級国道?復活だ!

時間も早く、初参加者に薪割りを体験して頂く。16時半過ぎに水場径の作業も終了する様に伝える。水場径は30段を取替え改修したと報告を受ける。

着替えて頂き、バーベキューの炭火をおこす。

本日の予定作業が無事終了で乾杯。盛り沢山の食材の種類と量、その他酢の物、サラダ(スナック豌豆+玉葱+サニーレタス)などの差し入れもあり満足・満腹になる

近藤DLは、夕日撮影に鉄塔(2022)付近に行かれる。

呑むほど酔うほどに新宮山彦の十八番の出番となり、函館の人、雀の学校、日立トンコ節、玉岡さん十八番の悪友の歌、最後に生熊さんの新宮山彦五万節でお開きとする。

近藤DLは、玉岡さんに替わり行者堂で堂守として就寝。



薪割り体験中

懇親会で説教?盛り上がり

5月25日(日)

夜明けは、朝霧が立ち込め視界が悪く、近藤DLが日の出は撮影出来なかったと行仙岳から戻って来る。

6時半前に略朝食の準備が整ったが、徳舛君を迎えに平澤君が迎えに登山口に降りている。朝食に間に合うように戻って来るとの事だが、7時まで待ち朝食とする。程なく枚方を1時半に出て仮眠後、国道168号線の高架から425号線への分岐を通り過ぎて戻り遅れたの事。

今日は、普請作業ばかりでなく気分転換に、実利行者も修行した継ノ窟を案内することとする。又、白谷トンネルからの登山道が

奥駈道に合流する3差路から約50m下った地点に、大木が道を塞いでいるとの情報があり、チェーンソーを持って確認に行く為、行仙岳に登り帰路に継ノ窟に行く事にして8時に出発する



ミリン干を焼く



朝食時行動予定を確認

捲道、行仙岳山頂、白谷トンネルへの3差路で、青木、川島は、白谷側へ倒木確認に下る。残りは行仙岳の三角点にタッチして、展望を眺めて戻るように指示する。

倒木は従来の道を塞いでいるが、横を通り抜けられ支障が無い。跨ぐ雑木古木をチェーンソーで切るが切れが悪く除ける事が出来ない。間伐杉丸太を横棧木に設置して分岐に戻る。

山頂組と合流して9時頃に継ノ窟下降点に戻る。立木支点にロープ張り支谷を下るが、途中から落石の発生しやすい斜面を下る事から一人づつ下る。崖下に添って斜面を横切り支尾根へ登り、立木を掴みながら慎重に登り9時半に継ノ窟へ。

ろうそくと線香を立て般若心経を唱和する。下山は窟からザイルを張り下山する、最後の支谷斜面はロープを頼りに力で登り1

0時過ぎに全員奥駈道に戻る。ガラ場と岩場の道無き所を上下し、緊張と思わぬ力が入り、散策だったが疲れ切って小屋に戻る。



行仙岳登頂！

10時40分小屋から急斜面を登り、間伐材の枝落し・切断をして、滑車とロープを使って尾根に引き上げる。

疲れ切っていたと思われるが、皆元気で調子が出た来た11時半過ぎに作業を終了する。尾根に16本引き上げられた。又、小屋に戻る際に小脇に抱えて引きずって、小屋上に7本集荷した。



継ノ窟にて



間伐材引上げ準備



引き上げロープを引く

昼食はレトルトカレーだが美味しい。

13時前に佐田ノ辻で記念写真を撮り、茂原クリニックの皆さん下山の際には、空き缶、持ち帰りごみ、背負子5個を登山口に下して貰う。

下山前に管理棟の鍵を捜すが見つからず、合鍵で施錠し、14時前に下山。帰路に児嶋さんの家内の実家である小森集落に立ち寄り、持経宿等に設置する鳥巣箱を頂く。

近藤DLは、日本蜜蜂が通う巣箱を撮影し16時半に帰新。



普請作業無事終了！

◇本行事での寄贈品

茂原クリニック：缶ビール4箱+飲料水1箱+ゴマ豆腐+釣鐘饅頭

+1斗缶4個+インスタント味噌汁+多数と志納金：5万円。

山上皓一郎；鈴焼き。児嶋道夫；LED電球2個及び配線。

大江加予子；衣装ケース1個。

尚、野菜・果物・などの食材は省いた。(文責 川島)